

2017年7月6日

## 第76回日本公衆衛生学会総会 概要

### 1、趣旨

日本公衆衛生学会総会は、わが国の公衆衛生の進歩と発展に資するため、昭和22年の第1回開催以来、既に75回を数え、公衆衛生学並びに地域保健の現場における様々な課題についての最新の研究成果が数多く発表され、わが国の公衆衛生に先導的な役割を果たしてきました。今般、第76回総会が鹿児島県で開催されることが決定され、本県の公衆衛生の各分野の発展に資するため、またこれまでの公衆衛生学会の伝統を踏まえ、次世代の健康社会実現のための公衆衛生人材育成について議論を深めるため、鹿児島大学が、鹿児島県、鹿児島市、その他関係機関とも連携しながら行いたいと存じます。

2、会期 2017年10月31日（火）～11月2日（木）

3、学会長 秋葉 澄伯（鹿児島大学名誉教授）

4、テーマ 明治維新と薩摩と公衆衛生～公衆衛生の黎明期を支えた地から未来への発信～

5、会場 かごしま県民交流センター（鹿児島市山下町14-50）  
宝山ホール（鹿児島市山下町5-3）  
鹿児島県歴史資料センター黎明館（鹿児島市城山町7-2）  
\*予想動員数：約4,000名

6、ホームページ <http://www.c-linkage.co.jp/jsph76/>

### 7、プログラム（予定）

#### 10月31日（火）

開会式、学会長講演、特別講演、総会、シンポジウム、優秀演題選考会  
一般演題（口演・示説）、自由集会、ランチョンセミナー、紹介ブース・企業展示

#### 11月1日（水）

特別講演、特別報告、教育講演、奨励賞受賞講演、シンポジウム、  
一般演題（口演・示説）、自由集会、ランチョンセミナー、  
紹介ブース・企業展示

#### 11月2日（木）

特別講演、教育講演、シンポジウム、一般演題（口演・示説）、  
ランチョンセミナー、紹介ブース・企業展示、市民公開講座

8、役員	名誉学会長	三反園 訓	(鹿児島県知事)
	名誉顧問	森 博幸	(鹿児島市長)
	学会長	秋葉 澄伯	(鹿児島大学名誉教授)
	副学会長	池田 琢哉	(鹿児島県医師会長)
		藤本 徳昭	(鹿児島県保健福祉部長)
		上之園 彰	(鹿児島市健康福祉局長)
	顧問	前田 芳實	(鹿児島大学長)

(平成 29 年 7 月現在)

※実行委員会（関係大学、鹿児島県、鹿児島市、関係団体で構成）を組織し、重要事項の決定等を行う他、学術部会（関係大学等で構成）を組織し、演題の調整等を行う。

- 9、事務局
- 【実行委員会事務局】 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻人間環境学講座内
  - 【学術部会事務局】 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻人間環境学講座内
  - 【運營業務受託会社】 株式会社コンベンションリンクージ  
〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 1-3-6 第三博多借成ビル  
TEL.092-437-4188 FAX.092-437-4182  
E-mail : jsph76@c-linkage.co.jp

#### 特別講演4 健診品質維持のための調査研究と提言

11月1日(水) 9:20~10:20 第4会場 鹿児島県文化センター3F 第6会議室

座長 宮川 路子(法政大学人間環境学部人間環境学科)

演者 杉田 稔(東邦大学)

略歴 1970年慶應義塾大学医学部卒、同年慶應義塾大学医学部衛生学・公衆衛生学教室助手、1978年同講師、1980年東海大学医学部公衆衛生学教室助教授、(1983-1985年米国の東西センター人口学研究所訪問研究員)、1991年東邦大学医学部衛生学教室教授、2011年東邦大学名誉教授。専門領域:疫学、リスク科学、生物統計学、経済学、環境保健学、産業保健学、臨床試験、人口学。

#### 特別講演9 大気汚染による健康リスクの現状と低減への課題

11月2日(木) 9:40~10:40 第9会場 かがしま県民交流センター4F 大研修室3

座長 武林 亨(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

演者 新田 裕史(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)

略歴 1982年東京大学大学院医学系研究科修了(保健学博士)。同年国立公害研究所研究員。1984年東京大学医学部助手。1990年国立環境研究所主任研究員、総合研究官、環境疫学研究室室長、環境健康研究センター次長を経て、2011年から環境健康研究センター長。2015年から同環境リスク・健康研究センターフェロー。

#### 教育講演1 環境化学物質と健康 ~環境中毒の歴史~

11月1日(水) 9:20~10:20 第6会場 かがしま県民交流センター2F 中ホール

座長 新田 裕史(国立環境研究所環境リスク・健康研究センター)

演者 川本 俊弘(産業医科大学医学部産業衛生学講座)

略歴 昭和60年山口大大学院医学研究科社会医学系公衆衛生学専攻修了。同年山口大学助手。昭和63年産業医科大学講師、助教授を経て平成8年~衛生学(現在産業衛生学)講座教授。平成21年~23年名古屋大学客員教授。平成26年~29年産業医科大学医学部長。平成24年~国立環境研究所エコチル調査コアセンター長。専門分野は産業衛生学、小児環境保健、環境中毒学。主にプラスチックによる小児健康影響の研究に従事

#### 教育講演4 少子超高齢化社会における循環器疾患予防

11月1日(水) 11:00~12:00 第5会場 かがしま県民交流センター1F 県民ホール

座長 北村 明彦(東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム)

演者 磯 博康(大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学)

略歴 1982年筑波大学医学専門学群卒業。1986筑波大学医学研究科博士課程修了。2002年筑波大学社会健康医学教授、2005年大阪大学公衆衛生学教授、2012年WHO生活習慣病対策専門委員。専門分野は公衆衛生学、特に生活習慣病の疫学と予防。

#### 教育講演 5 統計解析

11月1日(水) 13:20~14:20 第5会場 かがしま県民交流センター1F 県民ホール

座長 相良 安昭(社会医療法人博愛会相良病院乳腺科)

演者 森田 智視(京都大学大学院医学研究科 医学統計生物情報学)

略歴 1992年東京大学(疫学・生物統計学)卒業。京都大学助手、講師を経て2006年名古屋大学大学助教授、2007年京都大学特別教育研究准教授、2008年横浜市立大学(臨床統計学・疫学)教授、2013年から現職。専門は、医学統計学。現在、臨床試験のデザインやデータ解析法の研究に従事

#### 教育講演 6 生活習慣改善によるがん予防

11月1日(水) 14:20~15:20 第5会場 かがしま県民交流センター1F 県民ホール

座長 田島 和雄(洗心福社会美杉クリニック院長、愛知県がんセンター名誉研究所長)

演者 津金 昌一郎(国立がん研究センター社会と健康研究センター)

略歴 1981年：慶應義塾大学医学部卒業、1985年：同大学大学院修了(医学博士)。同大学助手、国立がんセンター研究所研究員、室長、部長などを経て、2013年国立がん研究センターがん予防・検診研究センター長、2016年に組織改編により現職。専門分野は、がんの疫学研究(がんの原因究明と予防に関する研究)

#### 教育講演 7 感染リスクのデータ分析

11月1日(水) 15:30~16:30 第5会場 かがしま県民交流センター 1F 県民ホール

座長 齋藤 正也(情報システム研究機構 統計数理研究所)

演者 西浦 博(北海道大学大学院医学研究院)

略歴 2002年 宮崎医科大学医学部卒。感染症の理論疫学研究のために、タイ、英国、ドイツ、オランダ、香港での研究経験を経て、2016年4月から北海道大学大学院医学研究院において衛生学教室教授。専門は感染症疫学と生物統計学。現在、新興再興感染症の数理モデル研究に従事。

シンポジウム 43 大気汚染の公衆衛生学的インパクト

11月2日(木) 10:40~12:10 第9会場 かがしま県民交流センター4F 大研修室3

座長 新田 裕史 (国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)

座長 武林 亨 (慶應義塾大学医学部)

「大気汚染による健康インパクトを地球規模で評価する」

演者 上田 佳代 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻環境衛生学講座)

略歴 1994年に北海道大学医学部卒業。2005年まで内科医として医療機関に勤務。2008年から国立環境研究所研究員。2014年より京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻准教授。専門分野は環境保健。現在、大気環境が健康に及ぼす影響評価の研究に従事。

「大気汚染による海外在留邦人の健康問題」

演者 島 正之 (兵庫医科大学公衆衛生学講座)

略歴 1984年3月千葉大学医学部卒。船橋二和病院での臨床研修、千葉大学助手、講師、助教授を経て、2004年7月から兵庫医科大学公衆衛生学講座主任教授。専門分野は環境保健学。現在、主に大気汚染の健康影響に関する疫学研究に従事。

「三宅島における二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)の呼吸器影響に関するコホート研究」

演者 岩澤 聡子 (防衛医科大学校衛生学公衆衛生学講座)

略歴 2003年産業医科大学医学部卒業。2009年慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了。慶應義塾大学医学部助教、同大講師を経て、2017年より防衛医科大学校講師。

「大気汚染の健康影響評価の新たな展開」

演者 道川 武紘 (国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センター)

略歴 2004年慶應義塾大学医学部卒。2010年慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了後、同大学衛生学公衆衛生学教室助教を経て、2011年から国立環境研究所に勤務。現在は同所環境リスク・健康研究センター主任研究員として、主に大気汚染を中心とする環境要因の健康影響に係る疫学研究を進めている。

シンポジウム 44 メチル水銀の環境保健と毒性学に関する最近の動向

11月2日(木) 10:40~12:10 第10会場 かがしま県民交流センター4F 大研修室4

座長 二塚 信 (熊本大学名誉教授)

座長 村田 勝敬 (秋田大学大学院医学系研究科環境保健学講座)

「メチル水銀の疫学的研究の歴史」

演者 村田 勝敬 (秋田大学大学院医学系研究科環境保健学講座)

略歴 1981年東北大学医学部卒。1983年大分医科大学助手、1987年東京大学医学部助手、1997年帝京大学医学部講師、2001年秋田大学医学部教授(衛生学講座、のち環境保健学講座と改称)。専門は産業保健、環境保健領域の神経影響評価。

「メチル水銀の胎児影響に関する疫学・実験研究」

演者 坂本 峰至 (環境省 国立水俣病総合研究センター環境保健研究室)

略歴 1987年 鹿児島大学大学院医学研究科博士課程 修了、同年 国立水俣病研究センター疫学研究部、研究員、調査室長、国際・総合研究部長(兼)疫学研究部長を経て、2017年から主任研究員(再任用)。主に、メチル水銀の胎児影響の研究に従事。

「メチル水銀の疫学的研究の歴史」

演者 白石 光也 (鹿児島大学共同獣医学部薬理学分野)

略歴 2001年3月 山口大学大学院連合獣医学研究科卒。カルガリー大学博士研究員(2001-04年)、北里大学薬学部助手(2004-07年)を経て、2007年4月から鹿児島大学共同獣医学部准教授。専門分野は獣医薬理学・毒性学。現在、主に化学物質の細胞内シグナル伝達の研究に従事。

「魚食を介したメチル水銀の曝露評価に関する研究」

演者 山元 恵 (国立水俣病総合研究センター・基礎研究部・生理影響研究室)

略歴 平成元年：鹿児島大学大学院理学研究科修士課程修了。平成4年：国立水俣病研究センター基礎研究部生理室研究員。平成9年：博士(医学)取得。平成17年：同センター基礎研究部生理影響研究室長。主にメチル水銀の毒性学および疫学研究に従事。